

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：石塚委員（障がい者総合サポートセンター一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第6回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和2年2月12日（水）13：30～15：30				
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委 員（部会長：志村 陽子）				<敬称略>
	一色 隆雄	宇田尻 浩司	遠藤 文夫	田邊 俊子	宮坂 貴子
	石塚 由江	金丸 正明	木村 直紀	生駒 友一	
	オブザーバー：岩下龍矢（蒲田警察署）、武知大輔（大森警察署） 徳永敦司（蒲田消防署）、中島香織（矢口消防署）				
	区職員： 山下 潤二（福祉管理課調整担当係）、高野 耕治（上池台障害者福祉会館）				
事務局：宮崎 理恵、木伏 正有、森崎 恵里、森田 好美 (障がい者総合サポートセンター)					
1 連絡・確認事項					
(1) 司会・書記の確認					
(2) 出欠者・オブザーバー参加者・配付資料の確認					
(3) 運営会議の報告					
1) 次年度の専門部会委員について					
今年度より、専門部会委員は2年任期となり、専門部会のみ委員は、単年任期となる。 専門部会委員とのみ委員には、次年度の活動調査を行う。					
2) 大田区自立支援協議会 第3回本会報告について					
3月16日（月）13時30分から実施し、各部会の活動報告やワーキンググループの進捗状況の説明を行う。					
3) おおた障がい者施策推進プランについて					
「おおた障がい者施策推進会議」が2月14日（金）午後開催される。自立支援協議会から山根副会長、志村部会長が公募区民枠として出席する。					
4) 合同公開勉強会の開催のお知らせ					
2 前回の振り返り					
議事録・ご意見カードの確認					
3 議題					
(1) 大田区自立支援協議会報告書（案）の掲載内容について					
自立支援協議会に「防災部会」を設置してから9年目となる今年度は、「権利擁護」の視点を新たに加え、「防災・あんしん部会」として活動した。具体的には、「部会の開催状況と内容について」「防災訓練への参加について」「研修会の開催（マイタイムライン学					

習会) について」「ワーキンググループの立ち上げ～活動内容の報告等について」を報告書内に掲載する予定。

(2) 大田区自立支援協議会 第3回本会報告に向けて

パワーポイントを使用したの報告。部会報告7分、ワーキンググループの説明3分。

1) 今年度の振り返り①〈本会報告スライド(案)より〉

【表紙～ワーキンググループ(調査・研究)】

- ・ 地域における要配慮者支援の要である関係機関の現状を調査するため、福祉避難所協定を結んでいる施設や特別支援学校に対してアンケート調査を実施。集計後に共有を図り、次年度へつないでいく。

2) 今年度の振り返り②〈本会報告スライド(案)より〉

【ワーキンググループ(自助・共助のツール)】

- ・ ヘルプカードのエピソード集や区内福祉避難所の位置を示したマップを作成。大田区総合防災訓練の際、参加者に説明し共有を図ることができた。
- ・ 相談支援専門員にサービス等利用計画作成のような、災害時の計画(個別避難計画)を作成する仕組みを作るには、予算化が必要になることを確認した。要配慮者名簿の登録や予算化することで可能になる取り組みなど、次年度も様々な立場の方と防災について、建設的な話を進めていきたい。

3) 次年度の課題あるいは、部会に参加した感想(委員・オブザーバーから)

○防災の視点から

- ・ 風水害に備えて、ハザードマップの見方を知り、避難方法を考えるマイ・タイムラインの学習は誰にも必要だと感じた。
- ・ 福祉避難所の開設にあたっては、施設単体では限界があると思っている。ネットワークを構築し、機能させていくにはどうしたらよいか、検討していきたい。
- ・ 福祉避難所として、利用者を施設内で確保する計画や施設の事業継続計画(BCP)の作成方法や、災害時の情報伝達方法について検討が必要。
- ・ 自助・共助ツールの作成、調査・研究の検討事項には予算や時間がかかりそうなこともあるが、次年度へ継承していきたい。

○権利擁護の視点から

- ・ 日頃より権利擁護の視点を持って取り組むことを心がけているが、支援を重ねる中で、福祉制度の基盤にある「申請主義」を見直す必要があるのではないかと感じている。

○部会活動を踏まえた情報発信について

- ・ 部会以外では、防災や権利擁護に対するギャップがあることを感じた。部会の中で作成した自助のツールを地域の方に伝え、楽しめる企画をとおして、多くの人に部会が培ってきた内容を広めていきたい。
- ・ 地域の防災訓練に聴覚障がいのある方の参加が少ない。また、自治体から発令される警戒レベルの意味がわからない人もいる。さらに広報を進める必要がある。
- ・ 昨年の台風被害があった後、視覚障がいのある方は、垂直避難の行動が多かった。防災用品を準備する等、防災意識のある方も多いため、防災訓練への参加を増やす

ために、気楽に取り組める防災の催し物のようなものがあるとよいと思う。その場合の情報保障も必要である。

4) その他

- ・ 警察署より、聴覚障がいのある方に向けた対応について、手話のできる警察官が配置されている「手話交番（駐在所）」の運用や、文字や画像で警察へ通報可能なシステム「110番アプリシステム」の報告があった。
- ・ 警察では、犯罪や事故防止の連絡する「巡回連絡カード」という制度がある。巡回警察官が防災に関する知識をさらに高め、災害についても住民と話をしていけるよう努めている。

4 委員及び関係機関からの情報提供

- (1) おおたTSネット拡大定例会のお知らせ
- (2) 東京都立城南特別支援学校での防災ワークショップ
- (3) 書籍「福祉的アプローチで取り組む弁護士実務」についての紹介
- (4) 第10回防災・減災セミナー2020の開催のお知らせ

※次回の日程

【合同公開勉強会】

日時：令和2年3月4日（水） 13時00分～16時00分

場所：障がい者総合サポートセンター A棟5階多目的室

【自立支援協議会第3回本会】

日時：令和2年3月16日（月）13時30分～15時45分

場所：障がい者総合サポートセンター A棟5階多目的室